



1959年創立を迎えられる龍野ロータリークラブ様を訪問させていただけることを光栄に存じます。宜しくお願いいたします。

本日の訪問に際しまして、深川純一PDGの伊丹クラブ例会での3分情報（純ちゃんのコーナー）と年2回開催していましたが、全国から多くのロータリアンが参加いただいていた15回の講演集を、謹呈申し上げます。本合本はクラブ運営またロータリーの理念、歴史を学ぶには最適の書と存じます。伊丹クラブが3年前の60周年記念事業として計画いたしていましたが、読みやすくするための校正に若干の修正を加えていますが、本旨は変更していません。この作業が思いの外時間がかかり、やっと今日お届けできた次第です。

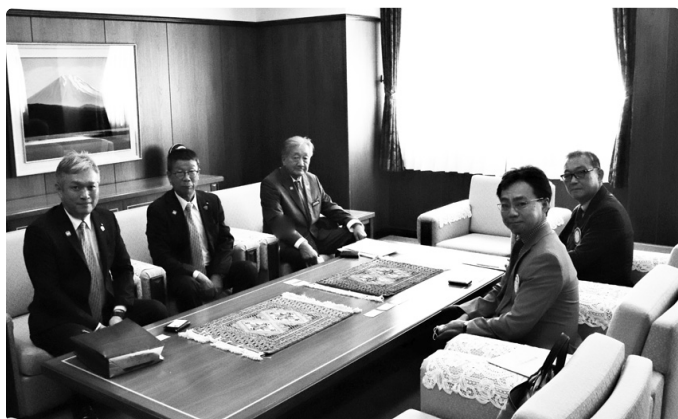
RI会長テーマとガバナー行動指針をご報告させていただきます。

シェカール・メータ氏RI会長テーマ

カルカッターマハナガル・ロータリークラブ（インド、西ベンガル州）に所属するメータ氏は、ロータリー国際協議会中の2月1日、次期地区ガバナーに向けて2021-22年度の会長テーマSERVE TO CHANGE LIVES「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」を発表しました。「人のために世話をし、奉仕することが最良の生き方。なぜなら、その経験を通じて誰かの人生だけでなく、自分の人生を豊かにできるのだから。ロータリーでの奉仕プロジェクトへの参加を通じて自身が人間として成長したことに触れたメータ氏は、その経験を通じてほかの人のニーズに目を向けるようになったと述べました。また「ロータリーが私の心に火をつけました」自分の身の回りを超えたところに目を向け、人類全体を考えるようになりました」とメータ氏。「奉仕が私の生き方となったのです。多くの方々と同じように、“奉仕とは、自分がこの地上に占める空間に対して支払う家賃である”という信条を持つようになりました」と語り、各クラブが「ロータリー奉仕デー」を実施することを求め、測定可能・持続可能なインパクトをもたらす奉仕プロジェクトへの会員の参加意欲を引きだすよう呼びかけました。



「深川純一講演集」を
寄贈いただきました。



多様性と会員基盤の向上に焦点を当て、会員が女子のエンパワメントに力を注ぎ、教育、リソース、奉仕、機会など、未来の女性リーダーの成功に必要な手段を与えてほしいと述べました。その上で、多様性、公平さ、開放性に対するロータリーの信念を会員が活動の指針とすることが大切であると語りました。奉仕を通じて大きなインパクトをもたらすには、ロータリーの会員基盤を広げる必要があ

る、とメータ氏。全世界の会員数は、過去20年間、約120万人のまま横ばいです。このため、2022年7月1日までに130万人に増やすことを目指して地区で率先して活動するよう呼びかけました。メータ氏の「Each One, Bring One」（みんなが一人を入会させよう）は、全会員がロータリーに一人を入会させることを求めるイニシアチブです。

会員基盤を広げながら、ポリオ根絶活動、Covid19との闘い、地域社会への奉仕を続けていくのは野心的な目標であることを認めた上で、「だからこそ皆さんの意欲が駆り立てられるでしょう」とメータ氏。「挑戦に立ち向かうのがロータリアンだからです」と締め括りました。

ガバナー行動指針

今年度のガバナー行動指針を“For the dynamic Leaders of futures with Rotary”「ロータリーとともに活力に満ちたリーダーを育てるために」とさせていただきました。

このような感染拡大のなかで巣ごもりするのではなく、あらためて「親睦」と「奉仕」の実践のための「学び」にスポットを当て、リーダーの「人材育成」を標榜させていただきます。ロータリアンのみならず、ロータリアンに関わる全ての人々（従業員、関係団体等々）が、行動的、力強い、生き生きとした、活力に満ちたリーダーを育てるためにとしました。

「人材育成」はロータリーの大きなターゲットの一つであり、個人倫理の確立、人間の魂のあり方を問い、人を育てる核心は、穢れ無き魂を持った人を育てること、どのような人をどのように育てるかが最も大切であると考えます。

地区・クラブリーダーの皆様へ期待を込めてのお願いです。ロータリーの全てのプログラムが人材育成に繋がります。これを意識しないと忘れ去られているのが現状です。私たちはこの機会に恵まれたロータリアンは自らを体現することによって「人材育成」をお願いいたします。あらためて「親睦」と「奉仕」の実践のための「学び」にスポットを当て、リーダーとしての「人材育成」をスローガンとさせていただきます。

これはロータリアンのみならず、ロータリアンに関わる全ての人々、従業員、関係団体等々・Dynamic・動的な、力強い、生き生きとした、活力に満ちたリーダーを育てるためにとしました。現下の感染状況で、フェスタ等運営や奉仕プロジェクトの具体的な目標や進行管理は、地元自治体の措置指示を遵守しつつ実施いたしますが、決して巣ごもりするのではなく、全てのプロジェクトの進行にあたって、「人材育成」を意識した運営をお願いいたします。この「不自由を自由に楽しむ」心意気がロータリアンの真骨頂であると確信しています。

